

羽毛布団の再資源化(実証実験)について

1. 現況と課題

現在、羽毛布団については、粗大ごみコールセンターで受付を行い、粗大ごみ収集を行った後、焼却施設へ運び、切断機で切断し、ごみピット内へ投入しているが、ごみピット内で羽毛が飛び散るため、ごみクレーンで扱いづらいものとなっている。

また、市民がごみ処理場へ直接搬入した場合、移動式破碎機にて破碎し埋め立てているものの、こちらも羽毛が飛び散り、場外へ出る可能性がある状況。

2. 目的

- (1) 再資源化の促進
- (2) 焚却施設の負荷軽減
- (3) ごみ処理場での作業負荷軽減
- (4) ごみ処理場の埋立容量の確保

3. 事業概要

- (1) 焚却施設またはごみ処理場へ搬入されたダウン50%以上の羽毛布団を別途保管
- (2) 市パトロール員が回収
- (3) 市役所にて梱包
- (4) 河田フェザー(株)へ送付、売却

4. 売却できないもの

- (1) 濡れているもの
- (2) 綿布団、ポリエステル製の布団
- (3) フェザー布団(羽根ふとん)
- (4) ダウンの割合が50%未満のもの
- (5) 彩色された羽毛の混入が確認できた場合
- (6) ダウンジャケット
- (7) ふとんカバー